

# 地域社会 DX による高校生の社会的スキル向上と地域帰属意識の醸成

大学院情報学研究科

プロジェクト代表 浦田真由

## 1. 事業の目的

地域社会においては、若年層の地域離脱と人口減少という社会課題が深刻である。そこで本事業では、地域の高校生と連携した実践的な地域社会 DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みを通じて、高校生の地域への帰属意識や社会的スキルの変化を明らかにすることを目的とした。

本事業のフィールドである岐阜県高山市では、10 代後半から 20 代前半の若者が進学や就職を機に市外へ転出し、その後も定住に至らないことが課題となっている。地域の将来を担う若者たちが、地元に関心を持ち、将来的に地域に戻ってくる可能性を高めるためには、早期から地域と主体的に関わる経験が重要であると考えます。研究室では 2023 年より、岐阜県立飛騨高山高校ビジネス情報科と連携し、地元高校生や大学生が地域課題に対してデジタル技術を活用して取り組む研究活動を展開してきた。地元の商工観光事業者等と連携し、店主によるデジタルやデータ利活用を高校生が支援する取組を実践している。

そこで、本年度は、高校生に対する影響を定性的なアンケートにとどめず、社会的スキル尺度「KiSS-18※」を用いた定量的評価を行い、長期的な変化を追跡した。これにより、デジタル活用の推進と地域への関与が高校生の内面的成長や自己効力感にどのように寄与するかを検証した。また、本年度より、岐阜県立斐太高校との連携が始まり、普通科高校の探究活動において、地域と連携したテーマの設定・課題分析・データ活用・発表までの一連のプロセスを生徒が担う取組を行うことで、高度な学びが成立するかどうかについても実証した。

※参考：菊池章夫『社会的スキルを測る:KiSS-18 ハンドブック』（2007 年）

## 2. 概要

本事業では、高山市、飛騨高山高校、斐太高校との連携のもと、以下の 5 つの取り組みを実践し、参加した生徒の社会的スキルと地域帰属意識の変化を評価した。

- ① 観光イベント効果検証のための歩行者数データの分析とデータに基づく施策提案
- ② 地域住民・事業者向けデジタル相談会「高校生デジタルサロン」の開催
- ③ 観光施設における来館者数データの収集と分析
- ④ 地域の事業者に向けた Google ビジネスプロフィール利活用支援
- ⑤ 探究活動でのデータ利活用のための勉強会の開催

### 3. 各取り組みの詳細

#### 3.1 観光イベント効果検証のための歩行者数データの分析とデータに基づく施策提案

高山市が収集・公開している歩行者数オープンデータを用いて、飛騨高山高校ビジネス情報科の生徒が、地域の観光イベント開催の効果検証を行った。2025年6月～7月にかけて、高校の授業内で全6回・11時限のワークショップを開催し、高山祭や二十四日市などのイベント開催時の人流を分析した。最終回には、高山市役所にて市職員に向けて分析結果を発表する機会を設け、高校生による分析は高山市職員から高い評価を得た。



#### 3.2 地域住民・事業者向けデジタル相談会「高校生デジタルサロン」の開催

飛騨高山高校ビジネス情報科の生徒が、地域住民のデジタルの困りごとを解決する相談会「高校生デジタルサロン」を、2024年11月より継続的に開催している。本年度は6月・10月・2月に開催し、合計29名の地域住民・事業者が参加した。スマホ・パソコンの基本的な操作から、事業者のInstagramの運用の相談まで高校生が幅広く対応し、高校生のアドバイスが事業者のSNS運用改善に役立つ成果も見られた。



#### 3.3 観光施設における来館者数データの収集と分析

高山市の観光施設「飛騨高山まちの体験交流館」の協力のもと、飛騨高山高校ビジネス情報科の生徒が、全7回の授業で赤外線センサを用いて施設の来館者数の計測に取り組んだ。収集したデータをグラフに表し、施設職員に結果を報告した。同時に、施設の貸部屋の有効活用に向けた提案や、広場でのイベント開催の提案も行った。



### 3.4 地域の事業者に向けた Google ビジネスプロフィール利活用支援

飛騨高山高校ビジネス情報科の生徒が、主に飲食店や土産物店などを対象に、Google ビジネスプロフィール（GBP）の活用を支援している。大学院生が高校生に対して GBP の特徴や操作方法を説明する勉強会を実施し、そこで学んだことを活かして、高校生が事業者の GBP オーナー登録・プロフィールの充実などを支援した。



### 3.5 探究活動でのデータ利活用のための勉強会の開催

斐太高校の2年生に向けて、大学生が講師となり全2回のデータ利活用の勉強会を開催した。勉強会では、探究活動でのデータの活用についての説明と、Excelで地域のデータを分析するワークを行った。その他、探究活動を進めるにあたって、テーマの考案や情報収集の補助、発表に関するアドバイスなども行った。



## 4. 社会的スキルと地域帰属意識の変化

これらの取り組みを通じた高校生の社会的スキルおよび地域帰属意識の変化を検証するために、活動前として2025年5月、活動後として2026年1月に、飛騨高山高校ビジネス情報科3年生と斐太高校2年生のそれぞれを対象にKiSS-18を用いたアンケート調査を行った。KiSS-18は、菊池章夫によって開発された社会的スキルを測定する尺度であり、「他人と話していて、あまり会話が途切れないほうですか。」「他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。」などの18項目の質問に対して5件法で回答し、その合計得点（90点満点）で社会的スキルを測るものである。

アンケートで得られた回答のうち、同一生徒で結果の前後比較が可能な回答を対象にt検定を行ったところ、飛騨高山高校の15名では、集団全体として社会的スキルの有意な変化は確認されなかった（活動前平均61.27→活動後平均63.33）。斐太高校172名では、集団全体として社会的スキルが低下する結果となった（活動前平均62.56→活動後平均58.66）。

以上の結果から、短期的には地域と連携した取り組みが社会的スキルの直接的な向上につながるとは断定できない。このような結果となった要因としては、本指標が主観的評価に

基づくためスコアが変動しやすいことや、実際の地域データの活用などのやや挑戦的な課題に取り組んだことで、自己のスキルに対する評価基準が厳格化した可能性が考えられる。一方で、本事業により多く関与した飛騨高山高校の生徒の方が、活動終了時の社会的スキルが高かったことから、活動への関与度がスコアの変動に影響を与えた可能性が考えられる。

同様のアンケートにて地域帰属意識の変化を検証したところ、飛騨高山高校ビジネス情報科の生徒において、地域課題に対する関心の有意な向上が確認された。また、地域に対する愛着や定住意識についても、全体として向上が見られた。このような結果から、地域社会 DX を目的とした高校生と地域社会との関わりは、高校生の地域帰属意識の醸成に一定の効果があると考えられる。

加えて、アンケートの記述解答に基づく定性的な側面からは、高校生への教育効果と地域への波及効果が確認された。本年度の活動に参加した高校生からは「地域の役に立ててやりがいを感じた」、「分析を通して地域の知らなかったことを知れた」といった、自己効力感と地域理解の深まりを示す感想が多く寄せられた。さらに、各取り組みで関わった行政関係者・地域住民・事業者からは、「高校生が自分たちのため・地域のために動いてくれることが嬉しい」、「今後も地域のために活動してほしい」といった好意的な意見を多く得ており、世代間交流を通じた多方向への好影響が見受けられた。

## 5. 今後に向けて

本年度は、高山市の2校と連携し、主に5つの地域社会 DX に関連する取り組みを実践した。今後もさらに長期的に連携を続けることで、高校生の社会的スキルや地域帰属意識の変化について継続的に調査し、地域社会と関わる活動が高校生の地域帰属意識に与える影響を詳細に評価することを目指す。

また、これらの取り組みは他地域にも展開可能なものである。本年度実践した地域データを活用した地域課題や、デジタル技術を用いた事業者支援、デジタル相談会の開催というアプローチは、地域の課題解決と若年層の教育を両立させる有効な手段である。今後は高山市での継続的な活動をベースにしつつ、他地域への展開も進めながら高校と地域社会との関わりの事例を蓄積し、地域の高校生が主体となる新たな地方創生モデルの構築を目指していきたい。

## 【本事業に関連する研究発表】

- 外村奏太，堀涼，浦田真由，遠藤守，「観光まちづくりに向けた地域高校生による地産データ分析の実践 -イベント開催に伴う人流変動の評価-」，観光情報学会第 28 回研究発表会，2025 年 10 月
- 外村奏太，堀涼，浦田真由，遠藤守，「飛騨高山高校と連携した「高校生デジタルサロン」の継続的開催」，第 7 回飛騨高山学会，2025 年 11 月
- 堀涼，浦田真由，遠藤守，「データに基づくイベントづくりのための歩行者数データの利活用方法の検討～桜山風鈴まつりの分析～」第 7 回飛騨高山学会，2025 年 11 月
- 山下祥輝，砂田太陽，柏木琉聖，田村年幸，外村奏太，堀涼，浦田真由，「高山市を小京都からデジタル都市へ」～産学官連携～，第 7 回飛騨高山学会，2025 年 11 月
- 外村奏太，堀涼，浦田真由，遠藤守，「地域の高校生と連携した観光イベント効果の検証のための人流データ分析」，第 23 回情報学ワークショップ，2025 年 12 月
- 岡川梨華，東條亜美，浦田真由，遠藤守，「高校生を対象とした高山市における DX 人材育成へ向けたデータ活用ワークショップの実践」，第 23 回情報学ワークショップ，2025 年 12 月
- 川地史音，堀涼，浦田真由，遠藤守，「地元高校生による地域観光関連事業者への情報発信デジタルツール導入支援の試行」，第 16 回社会情報学会中部支部研究会・第 11 回芸術科学会中部支部研究会・第 14 回情報文化学会中部支部研究会合同研究会，2025 年 12 月
- 外村奏太，堀涼，浦田真由，遠藤守，「観光地の事業者等を対象とした地域の高校生によるデジタル相談会の開催」，観光情報学会第 28 回研究発表会，2026 年 2 月
- 外村奏太，堀涼，浦田真由，遠藤守，「地域のデジタル推進への高校生参画の実践と評価」，日本情報デザイン学会第 5 回学術研究会，2026 年 3 月
- 東條亜美，浦田真由，遠藤守，「地域課題解決に向けた高校生主体のデータ収集・分析」，日本情報デザイン学会第 5 回学術研究会，2026 年 3 月